

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1190400364	
法人名	株式会社ウイズネット	
事業所名	グループホームみんなの家・川越たかしな	
所在地	埼玉県川越市砂新田3-6-1	
自己評価作成日	平成30年10月26日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ケアシステムズ	
所在地	東京都千代田区五番町12-7	
訪問調査日	平成30年11月10日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個々のペースで穏やかな生活ができるよう、支援を行っています。簡単な調理、おやつ作りなど皆様と一緒にやる機会を設けています。開設より1年半の新しいホームではありますが、ご入居者様にたくさん笑顔を見せて頂けるように努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

訪問調査時には、リーダーはもとより、職員も明るく生き生きとしている印象を受けた。壁には折り紙で折った紅葉が咲き乱れ、2階に上がれば柿が壁一面に干し柿となって展示されている。職員の熱意や優しさが具現化されているように見受けられた。「施設を家と思って普段通りの生活をして貰いたい。自分は好きでこの仕事をしているので、その方の片隅にでも残ってくれるような職員になりたい」と語った職員には、穏やかさや介護の本質を分かっている理性を感じた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を掲示し、共有できるようにしている。	事業所開設時に職員全員で意見を出し合い、事業所理念を作成した。職員会議では理念について振り返り、理念に沿ったケアが実施されているかどうかを職員間で話す時間を設けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ノーア体操は、事業所内で実施するだけでなく近隣の参加者を募っている。オレンジカフェを月1回行っている。	月1回のオレンジカフェの開催やオリジナルの体操を地域住民に広め、事業所の存在や認知症についての理解を深めてもらえるように取り組んでいる。散歩に出かけた際には、地域の方と挨拶をかわし交流のきっかけ作りをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ノーア体操、オレンジカフェにより近隣の方との交流。お散歩に行った際に近隣の方への挨拶をする。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にてご報告を行っている。	定期的に運営推進会議を行い、ホームの活動報告を行っている。地域包括センター職員や家族の参加も議事録より確認している。今後は市役所担当者や地域住民にも参加してもらうことを課題としている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域連絡会に参加している。又、重大事故が起きた際には行政報告書の提出を行っている。	運営推進会議の案内を市役所担当課へ毎月持参し、ホームの現状について伝えている。また、地域連絡会にも必ず出席し、市や医療機関と協力体制を築けるように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月1回身体拘束廃止委員会を開催している。身体拘束を行わないケアを実施している。	月1回の身体拘束廃止委員会では、毎回事例検討を行い、身体拘束についての理解を深めている。経験の少ない職員にもわかりやすい事例をもとに説明し、身体拘束しないケアについての意識を高めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月1回高齢者虐待防止委員会を開催している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本部の研修会に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に説明を行っている。又、料金等の改定があった際には、都度書面を送付している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会やご面会時にご意見を伺っている。	家族会や運営推進会議の中で聞かれた家族からの意見や要望を把握し、小さなことでも運営に反映できるように取り組んでいる。家族が、気軽に意見や要望を伝えられるように個別に話し合いの機会を持つようになっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回職員会議を開催している。又、日頃より提案や意見を言いやすい環境作りに努めている。	日頃から、業務内容や運営について職員が意見を出しやすいような雰囲気づくりに努めており、職員からのアイデアを採用してホームの行事に反映させるなど、積極的に意見を取り入れるようになっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回人事考課を行っている。資格取得支援や研修への参加を勧めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本部での研修へ参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の研修会への参加。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実調時の情報や入居後の様子や訴えをもとに個々に合わせた支援を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実調、入居時などに要望やご意見を伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その方に合ったサービスが提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ空間で食事を一緒に摂ったり、家事活動を行ったりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	変化があった際にはご連絡をしたり、外出や通院の支援を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の支援、行事の案内を送付しホームへ来て頂いている。	面会以外にも家族と墓参りに出掛けたり、定期的に馴染みの美容院へ通うほか、本人からの希望にも応じながら、馴染みの人や場所との関係継続の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事、お茶の時間、おやつの中には皆様ホールに出てきて頂けるようお声掛けを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご相談があれば適宜対応をしていく。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居以前の生活環境や習慣を大切に、出来る限り意向に沿った生活が出来るよう努めている。	入所時には在宅時の生活状況について、本人や家族から詳しく聞き取り把握に努めている。入所後は、担当職員を中心に日々のケアの中での入居者との会話から思いをくみ取り、フロアー職員間で共有しケアにつなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にカンファレンスを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録を記入、申し送りをし職員間で共有できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活状況を把握。情報を共有に意見を聞き良いサービスが提供できるようにしている。	居室担当者を中心にケア会議を行い、本人の意向を反映した介護計画を作成している。定期的な見直しを行い、健康状態に変化があった場合などには随時見直しを行うようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録にプランの番号を記入して実践状況等を把握できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診対応など柔軟に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の商店に買い物へ行ったり。散歩に行ったりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回、内科医、歯科医の訪問診療を受けて頂いている。変化があった際には医師とご家族様と連絡を取っている。	訪問診療を月2回、実施している。ホームはバイタル・食事摂取量・状態等をFAXで医師に送信(前日)。当日、医師は訪問し事務所で聴診器や聞き取り等を実施し、必要な指示を出している。職員は指示に基づき対応するシステムがある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携看護師が月4回訪問している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	適時、相談を受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	お看取りの同意を取っているご入居者様がいます。	重度化や終末期に向けた方針については、入所時に家族に説明し同意を得ている。現在のところホームでは看取りは実施していない。家族の依頼があれば実施する予定となっているため、手順等について、職員への周知するとともに体制づくりが必要とされる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを準備している。又、慌てずに対応できるよう指導を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を行っている。アルソックの防犯訓練を実施。	年2回の避難訓練を実施している。厨房からの火災を想定し、職員3名が利用者全員を駐車場に避難させた。2回目は消防署との連携を考えているとのことである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	更衣や排泄の際には扉を閉める。排泄のお声かけも他入居者に聞こえないようにするなどしている。	利用者の要望があれば、同性介護(入浴時)を実施している。また、安全確認の為、各居室にある小窓には可愛い花柄の布がめくれるように取り付けられ、見えない様に配慮されていた。	1階は、小窓に布を取り付ける対応となっていたが、2階は対策が取られていなかった。プライバシーへの配慮として統一が望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	役に立ちたいと考えている方には、家事のお手伝いをお願いしたり、それぞれに合わせて支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理せず自身のペースで生活できるよう支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った洋服を選んだり、髪を整えて差し上げている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事形態や姿勢などに注意しながら、おいしく食事が出来るよう支援している。また、ご入居者様よりリクエストのあった食べ物をレクで作り召し上がって頂く機会を設けている。	毎月、おやつに焼きそば・お好み焼き・餃子等を作っている。利用者と職員と一緒に作る楽しみと食べる楽しみを共有している。利用者主体で実施されているので、様々な種類の焼きそばが出来るなど、喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録し適時調整を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、行っている。歯科医師、歯科衛生士と連携しケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お声かけ、介助が必要な方は適時行っている。	誘導が必要な利用者は7名、自立している利用者は10名で排泄の自立度の高さが伺える。利用者一人ひとりの排泄習慣を把握し、起床時・就寝時及び食事前後に声掛けを実施して現状維持を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をおすすめしたり、ヨーグルトなどの提供などを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や頻度などを確認しながら入浴して頂いている。	入浴日は月～日の午前と午後を設定しており、ゆっくりと好きな曜日の好きな時間帯に入れるように配慮している。利用者を確認すると午前中の入浴を嫌がる人が多いので午後が多くなっているが、会話をしながら楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や掛物、明るさの調節。様子をみながら適時休んで頂けるようお声かけを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を個別に管理し確認を行っている。薬剤師とも連携が取れている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の好みに合ったものを、適時提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買い物などに行っている。	春には桜がきれいな学校まで、数日にわたり全利用者が出かけている。また、平日の車が少なくて天気の良い日を選んで月数回程度、散歩をしている。民家の柿の木やアジサイを見たり、利用者の希望でスーパーやコンビニで買い物をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	消耗品が無くなった際などに、一緒に買い物へ行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時、必要に応じて電話を使用している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔で安全な空間で生活して頂けるよう努めている。季節を感じて頂けるようなレイアウトを考えている。	折り紙の得意な職員が利用者と一緒にコスモス・木の葉・ブドウ・キノコ・紅葉等を作成している。A-1の紅葉は、立体的に折った柿を干し柿風に壁一面に吊るしている大作であった。掲示されている様々な写真も切り貼りしており、職員が楽しみながら支援している様子が感じられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのソファでおしゃべりをされたり、仲の良い方の居室でおしゃべりをされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具などをお持ちになられている。	居室にはベッド・クローゼット・タンスが全室に設置されているが、好きなように配置換えをして、書棚と回転椅子を置きゆったりとTVを見ている利用者もいる。他にもさまざまな椅子などが居室に置かれ居心地よく過ごせる工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下などに物を置かず、安全に移動出来るようにしている。		

(別紙4(2))

事業所名 :グループホームみんなの家・川越たかしな

目標達成計画

作成日 : 平成31年2月7日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	14	プライバシーに対する配慮。1階の居室の小窓には布でカバーをしているが、2階には取り付けられていなかった。	全居室のプライバシーに対し配慮をする。	2階居室の小窓にもカバーを設置する。	1ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。